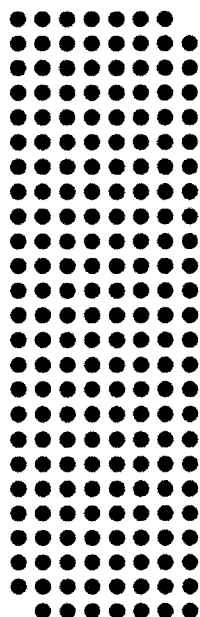


平成28年度 第64回算数・数学教育研究(山形)大会



# 基礎学力の向上と児童生徒理解の深化を目指した、小・中学校の円滑な接続の在り方

## ～小・中学校相互乗り入れ授業におけるTT指導を通して～

平成28年10月28日(金)

男鹿市立北陽小学校 教諭 松崎 久留美

これから、男鹿市立北陽小学校の発表をします。

本校は、秋田県教育委員会から平成26年、27年度、小・中連携実践研究モデル事業の指定を受け、研究実践してきました。

今日は、3年間の実践について報告します。

テーマは、

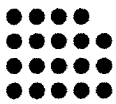
基礎学力の向上と児童生徒理解の深化を目指した、小・中学校の円滑な接続のあり方

サブテーマは、

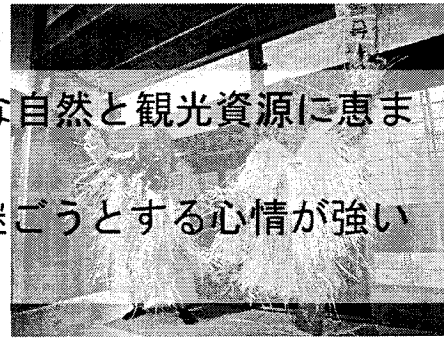
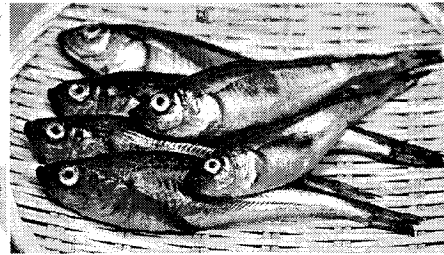
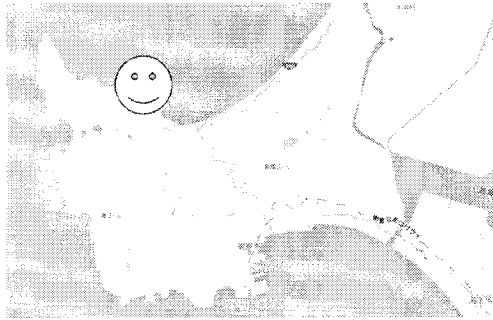
小・中学校相互乗り入れ授業におけるTT指導を通して

です。

【●】



## 地域の紹介



- ・ 男鹿半島の北部、豊かな自然と観光資源に恵まれた地域
- ・ 伝統文化を愛し、受け継ごうとする心情が強い地域



・本中学校区は【●】チズ

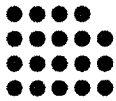
男鹿半島の【●】スマイル

北部に位置し【●】、ハタハタや【●】なまはげなど【●】、豊かな自然と観光資源に恵まれた地域です。

【●】

・児童生徒は、地域に根付く伝統文化を愛し、それを受け継ごうとする気持ちを強くもっています。

【●】



## 学校紹介

### 男鹿市立北陽小学校

学級数	7
生徒数	60名
教員数	9名



### 男鹿市立男鹿北中学校

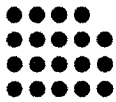
学級数	3
生徒数	33名
教員数	13名



男鹿市北浦地区にあって小学校1校、中学校1校からなります。

2校は単独の校舎ですが、歩いて行き来できる距離で、連携が比較的容易にできる環境にあります。

【●】



## 学校紹介

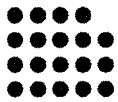


3

小・中学校ともに、各学年10数名の小規模校ですが、小学校は毎年、伝統の紫灯まつりに参加しています。中学校ではなまはげ太鼓クラブが盛んです。

なまはげ太鼓クラブは学校行事等で勇壮なパフォーマンスを披露し、地域のみなさんに楽しんでいただいて、元気を与えています。

【●】



## 小・中連携実践研究モデル事業の概要

### 課題

#### 〈中学校〉

学習意欲の低下 小6→中1 -20p(県平均)  
集団への不適應・不登校 など

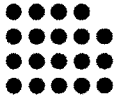
#### 〈小学校〉

専科指導や  
TTによる学習指導が困難な状況



それでははじめに、小・中連携実践研究モデル事業の概要について説明します。  
本県では小学校6年生が中学校に進学するに当たり、このような課題があるということから、

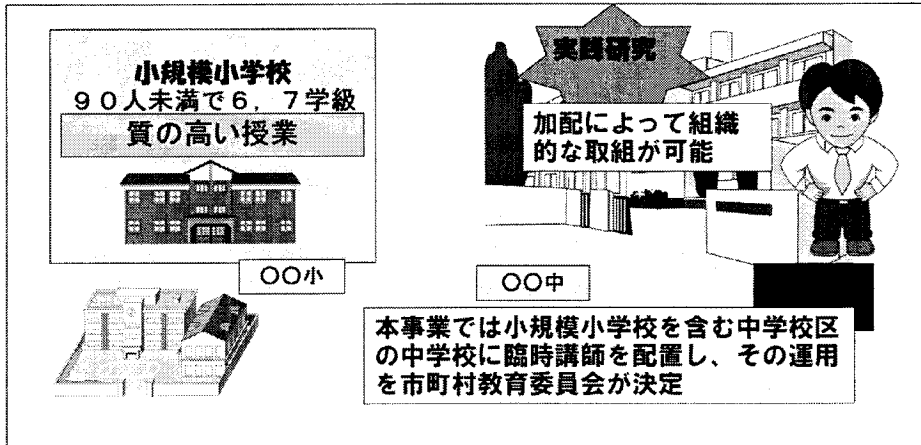
【●】



## 小・中連携実践研究モデル事業の概要

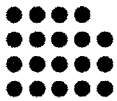
### 事業の概要

### 現状では困難な状況



小規模小学校を含む中学校区の中学校に臨時講師を配置することで、小・中連携に関わる組織的な取組を可能にし、より質の高い授業やきめ細かい生徒指導の実現を目指すというものです。

【●】



## 小・中連携実践研究モデル事業の概要

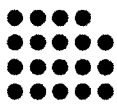
### 期待される効果

- 1 「中学校の先生が小学校で授業」することにより、  
専門的な指導が可能
- 2 「小学校の先生が中学校で授業」することにより、  
入学当初の不安解消につながる
- 3 小・中学校で一体的な研究が可能、  
小学校間での人間関係づくりが可能



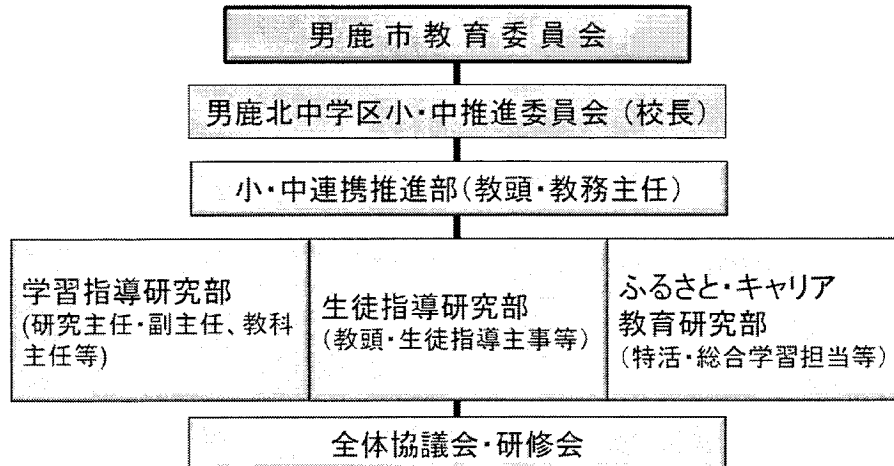
この事業における期待される効果は、以上の3つです。

5秒 【●】



## 小・中連携実践研究モデル事業の概要

### 組織と体制



本中学校区における、本事業の推進体制はご覧のとおりです。

男鹿市教育委員会の指導のもと 【●】

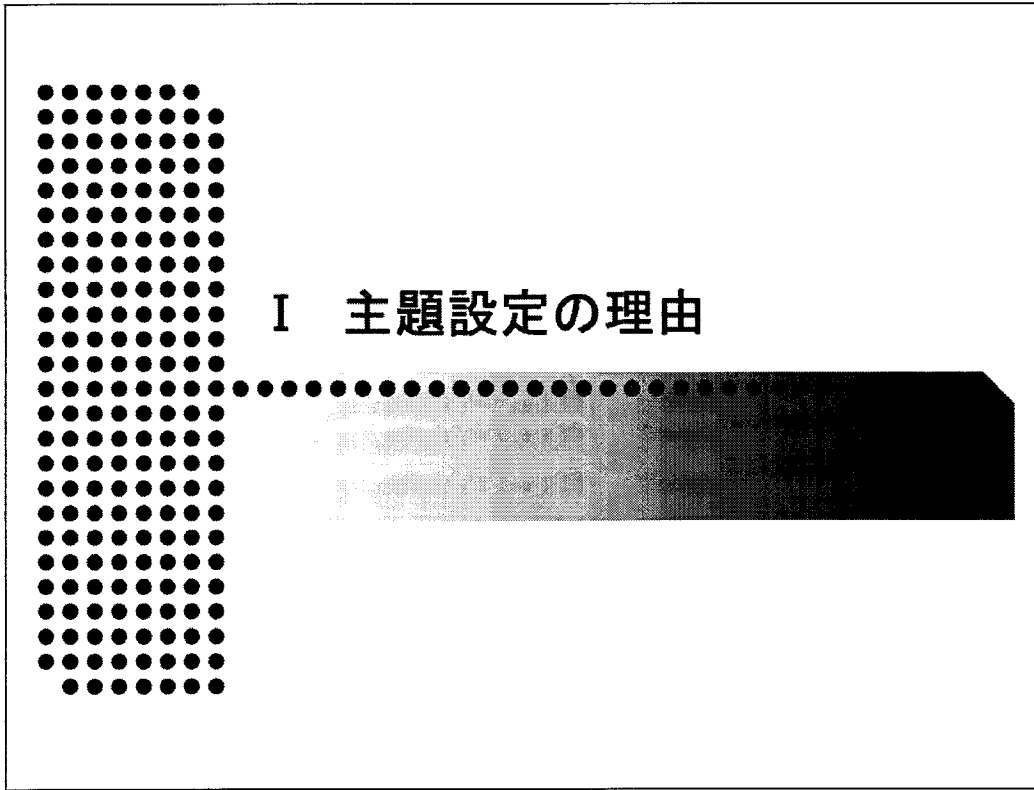
小・中で相互乗り入れ授業を行うに当たり、小・中連携推進部を設置し、小・中学校間の連絡や日程調整を行いました。【●】

学習指導研究部、生徒指導研究部、ふるさとキャリア教育研究部を設置し、児童生徒の学習生活面において9年間を見通すことができる体制を整えました。

次に、本研究の「主題設定の理由」について、説明します。

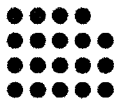
【●】



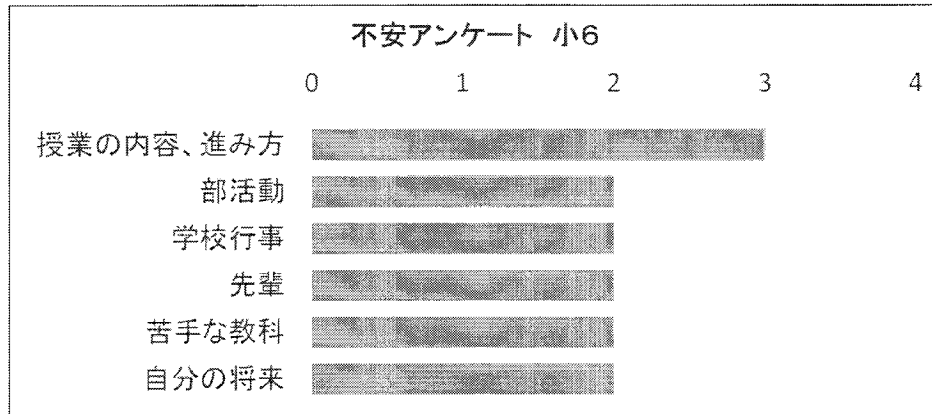


・本中学校区の児童生徒は少人数ながら、学習面・生活面において個人差が大きいという現状があります。

【●】



## アンケートから見いだされた小6生の課題



「まだ経験していないもの」への不安



そこで、年度当初に児童生徒の課題を把握するために「不安アンケート」を実施しました。

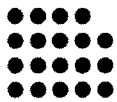
小学校6年生のアンケート結果からは

- ・授業が難しくなる
- ・部活動ではどんな練習をするのか、うまくできるか
- ・どんな行事があるのか、初めてやるから不安

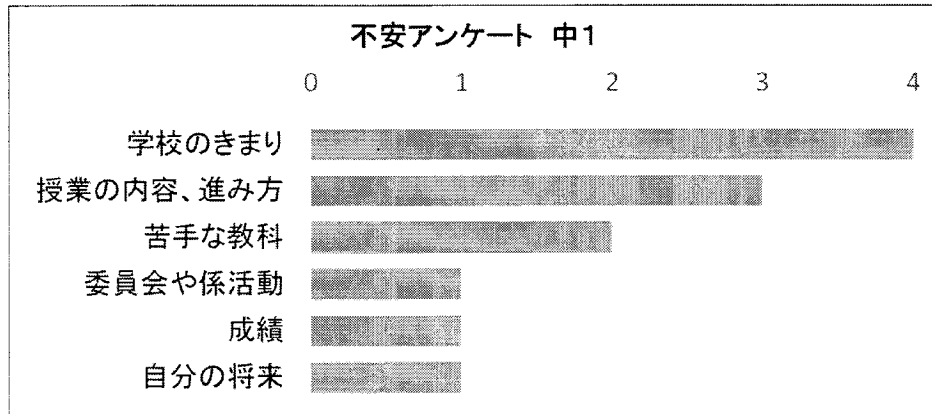
のように

【●】

まだ経験していないものへの不安を抱えていることが把握できました。



## アンケートから見いだされた中1生の課題



生活の変化でまだ慣れない中学校生活に対する不安



また、中学校1年生のアンケート結果からは

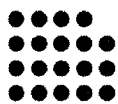
- ・学校の決まり全般 服装や頭髪の校則を守ることに慣れない
- ・授業の進み方が早い
- ・苦手教科が克服できるか

のように

【●】

生活の変化で、まだ慣れない中学校生活に対する不安を抱えていることが把握できました。

【●】



## 研究の仮説

### 1) 相互乗り入れ授業の工夫



基礎学力の向上、学習意欲の向上

### 2) 小・中学校間での密度の高い情報交換



一人ひとりに寄り添うきめ細かな指導



以上のことから

【●】

小・中学校相互の乗り入れ授業を工夫することにより、

【●】【●】

学習が連続して深化していることを実感し、生徒自ら学習を振り返って学び直すことや学習内容と日常生活との結びつきを理解することで、中1ギャップを防ぎ、学習への有用感や目的意識が向上したり、自己有用感や自尊感情が高まったりすることで、意欲をもって学習に取り組むことができるであろうということ。

そして、

【●】

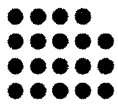
小・中学校間での密度の高い情報交換を行うことにより、

【●】【●】

生徒一人ひとりに寄り添うきめ細かな指導を行うことができ、家庭学習習慣の形成や充実を図ることができるであろう。

という2つの仮説を設定しました。

【●】



## 研究の重点

1) 小・中学校の円滑な接続を図る学習指導の取組

2) 学習に対する有用感を高め、基礎学力の向上に向けた授業改善

3) 学習習慣の向上を図るための指導の工夫



研究の重点は次の3点にまとめました。

【●】

小・中学校の円滑な接続を図る学習指導の取組

【●】

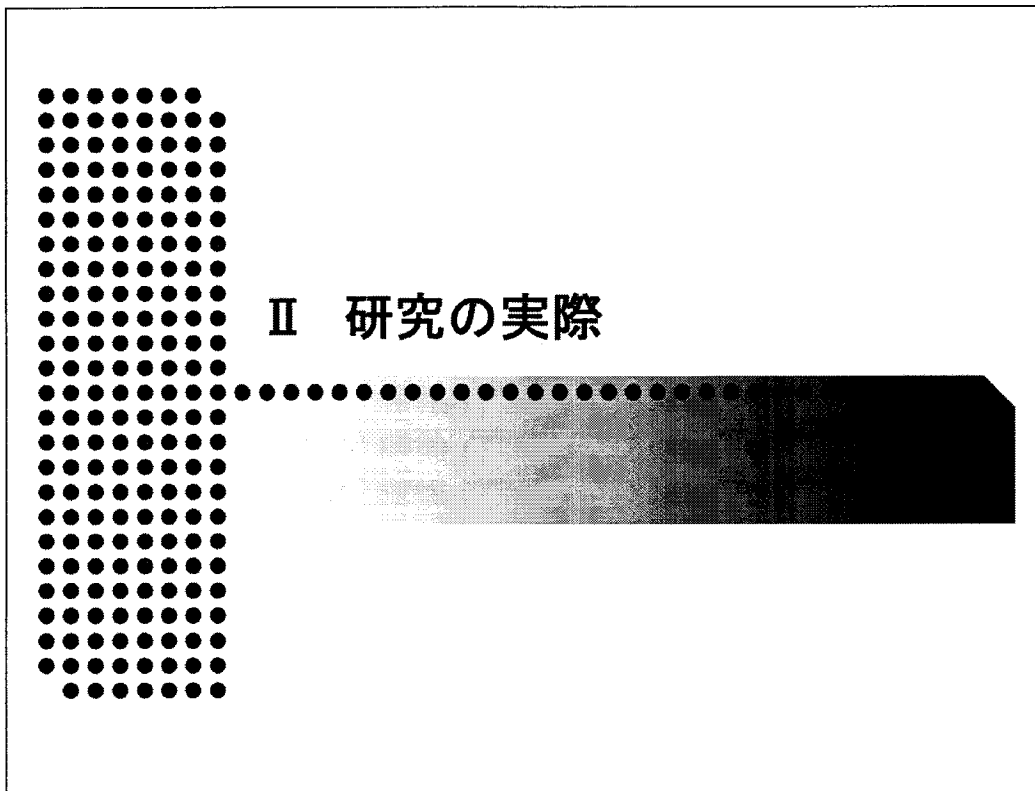
学習に対する有用感を高め、基礎学力の向上に向けた授業改善

【●】

学習習慣の向上を図るための指導の工夫

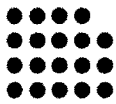
です。

【●】



続いて、研究の実際についてお話しします。

【●】



## 平成25年度の取組からの課題

### 小学校

- ・ 学習における個人差
- ・ 積極的に行動しようとする意欲不足

### 中学校

- ・ 学習内容を日常生活に生かす経験の不足
- ・ 基礎的・基本的な学習内容の定着



本事業に取り組む以前の課題は

#### 【●】

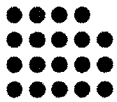
小学校では学習における個人差があること  
積極的に行動しようとする意欲が不足していること

#### 【●】

中学校では学習内容を日常生活に生かす経験が不足していること  
基礎的・基本的な学習内容が定着しきれていないこと

でした。

#### 【●】



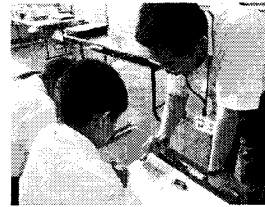
## 平成26年度の取組内容

### 1 継続性を意識した指導

- 1) 単元系統表の作成
- 2) 指導案の様式と授業スタイルの共通性の確認
- 3) 相互乗り入れ授業によるTT

### 2 職員研修会による児童生徒理解

小・中合同の「児童生徒を語る会」  
で児童生徒の情報の共有化



15



そして、25年度の課題から、26年度は、

【●】

- 1 小・中間の継続性を意識した指導

【●】

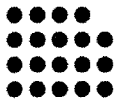
- 2 職員研修会による児童生徒理解

【●】

の大きく2つを柱として取り組みました。

【●】





## 平成27年度に向けての改善方針

### 1 継続性を意識した指導

- 1) 小・中学校間の相互理解
- 2) 日課表の改善
- 3) 計画的な相互乗り入れ授業
- 4) キャリア教育の指導計画の作成
- 5) 学習習慣系統表の作成



### 2 職員研修会による児童生徒理解

- 6) 生徒指導面での情報の共有化と支援



16

26年度の実践を通して、見えてきた27年度への改善方針です。  
研究2年目は次のように取り組みました。

【●】 一つ目の小・中間の継続性を意識した指導においては

小・中学校間の相互理解

日課表の改善

計画的な相互乗り入れ授業

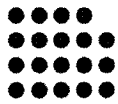
キャリア教育の指導計画の作成

学習習慣系統表の作成

【●】 教職員研修会による児童生徒理解においては

生徒指導面での情報の共有化をし、実際に支援に生かしていきました。

赤文字は特に力を入れて取り組んだものです。



## 平成27年度の取組内容

### (1) 小・中学校間の相互理解

- ・ 小学校 公立高校一般選抜問題の回覧
- ・ 中学校 小学校低学年の授業参観

小・中学校が連携して9年間で指導するための大きな意識付けとなった。

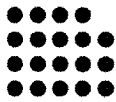
27年度の取組内容です。

まず一つ目ですが、小・中学校間の相互理解のために、小学校教員に公立高校一般選抜問題を回覧することと中学校教員が小学校低学年の授業を参観することから始めました。

【●】

このことは、小・中学校の教員が、連携を進めていく上での大きな意識付けとなりました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (2) 乗り入れ授業のための日課表改善

時間		8			9			10				
変更前	男鹿北中	読書 15	朝会 10	5	1校時 8:40-9:30			10	2校時 9:40-10:30		10	3校時 10:40-11:30
	北陽小	朝会 朝学習			1校時 8:35-9:20			5	2校時 9:25-10:10		15	3校時 10:25-11:10
変更後	男鹿北中	朝会		5	1校時 8:25-9:15			10	2校時 9:25-10:15		10	3校時 10:25-11:15
	北陽小	朝会 朝学習			1校時 8:35-9:20			5	2校時 9:25-10:10		20	3校時 10:30-11:15

小・中への移動時間を確保し、乗り入れ授業をよりスムーズに実施できるようになった。

18



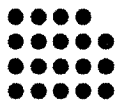
次に乗り入れ授業に関わる取組です。日課表の改善を行いました。

中学校の1校時の始業を8:40から8:25分に早め、2校時の始業を小・中ともに9:25分にそろえました。【●】

このことにより、学校間の移動時間が確保でき、2校時、3校時の乗り入れ授業がスムーズに行えるようになりました。

また、中学校では朝読書を昼に行い、5校時の始業も小・中ともに13:25分にそろえることにより、乗り入れが可能な時間を大幅に増やすことができました。

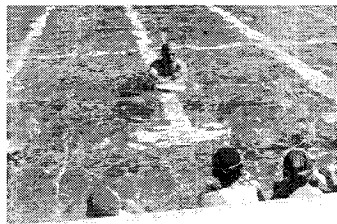
【●】



## 平成27年度の実組内容

### (2) 乗り入れ授業の実際

小学校教員による中学校への乗り入れ授業				
学年	教科	期間	時数	指導形態-内容
1年	数学	4月～ 2月	60	TT指導 下位グループへの支援
全学年	保体	7, 8月	8	水泳指導



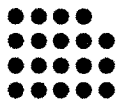
19

小学校教員による中学校への乗り入れ授業の実際です。

数学では小学校から中1生徒をよく知る教員が、中1数学の授業に乗り入れ、主に個別的な支援に当たりました。

#### 【●】

お手元の資料には計画の段階の時数をのせておりますが、実際にカウントしたところ、現段階ではこの時数です。



## 平成27年度の取組内容

### (2) 乗り入れ授業の実際

中学校教員による小学校への乗り入れ授業				
学年	教科	期間	時数	指導形態・内容
6年	算数	4月 ～2月	90	IT指導 下位グループへの支援
6年	外国語 活動	4月 ～10月	29	IT指導 授業リーダーとして支援
5年		11月 ～2月	6	

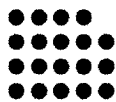
乗り入れ教科を増やし、日常的に継続して実施できるようになった。

20

中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実際の一部です。

算数では、中学校教員は小学校で今学んでいることがどのように中学校で生かされるか学習が連続していることを児童に伝えました。たとえば、6年生の角柱や円柱の体積を求める学習において、中学校での錐体の求積につながることを話しました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (2) 乗り入れ授業のまとめ

- 通年の乗り入れ算数・数学、外国語活動
- 中学校教諭の高い専門性を生かせる小学校の単元・題材の選定

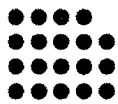
児童生徒は小・中の先生を知ることが大きな安心感となり、学習が連続していることを実感して、学習への意欲、興味・関心が高まってきた。



【●】

このような取組を通して、児童生徒は小・中の先生を知ることが大きな安心感となり、学習が継続していることを実感して専門的な興味関心が高まってきました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (3) 授業スタイルの共通性の相互理解

#### 北陽スタイル

つかむ・見通す

自力解決

話し合い

まとめ・振り返り

#### 読解力向上のためのプロセス（男鹿北中）

つかむ

考える・確かめる

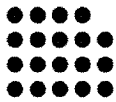
活用する

相互が積み重ねてきたスタイルの共通性を  
基盤とした授業づくりを継続できた。



3つめの取組は授業スタイルの共通性を相互に理解し【●】、児童生徒が迷いなく学習を進められるような授業づくりを継続したことです。

小学校では学習の進め方「北陽スタイル」をもとに、他教科でも問題解決的な学習への応用を試みました。



## 平成27年度の取組内容

### (4) 授業記録シートの活用

日付	8月28日(金)	授業者	(中)教科担任
学年	6年	小学校授業者	(小)学級担任
学習内容	割合の表し方を考えよう		
生徒の様子	コーヒーとさとうの割合で比の意味を考えた。ステップアップしていったので、わかりやすかったようだ。 Kは、理解できていなかった。		
備考	M欠席		

児童理解、授業づくり、日常的な情報交換  
に活用し、活動に深まりが出た。

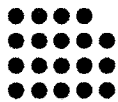
23



4つめは授業記録シートです。中学校教員が小学校への乗り入れ授業をする際に、情報交換ができれば【●】、児童理解や授業づくりにも活用できると考え、授業後に様子を入力していくことにし、いつでも閲覧可能にしました。

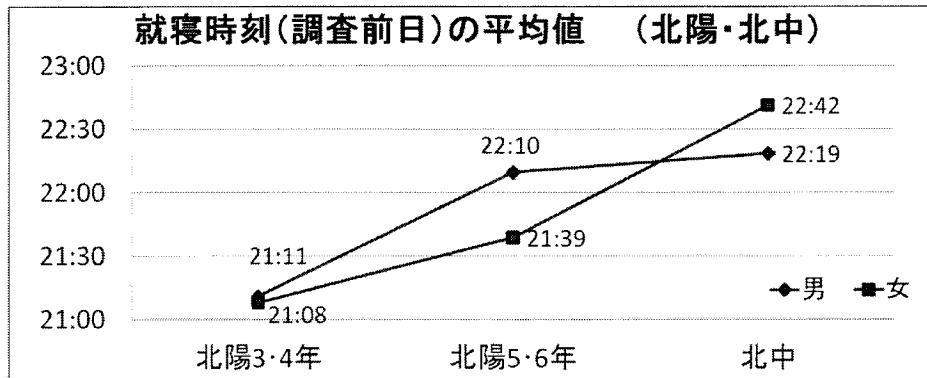
【●】





## 平成27年度の取組内容

### (5) 生活習慣の分析と共通理解



望ましい生活習慣について、現状を把握し、指導に当たることができた。

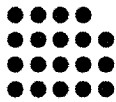
24



小・中学校の養護教諭は、同じ内容で「生活習慣」についてのアンケートを実施しました。【●】

起床・就寝時刻、学習時間、ネット等に使う時間など、18項目について調査し、全国平均とも比較して、生活習慣に関する問題点を共有し、解決に向けて協議しました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (6) 「キャリア教育基本計画」の活用

〇は資料掲載のページ、●は資料掲載の表

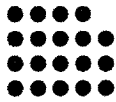
学校・学級	事業実施年度			事業実施年度
	2015年度	2016年度	2017年度	
小・中連携（キャリア教育）の取組	事業実施年度、目標設定、進捗状況、成果の振り返り			
小・中連携の取組	小・中連携の取組を推進し、児童生徒のキャリア教育の意識を高め、進路意識を醸成させる。	小・中連携の取組を推進し、児童生徒のキャリア教育の意識を高め、進路意識を醸成させる。	小・中連携の取組を推進し、児童生徒のキャリア教育の意識を高め、進路意識を醸成させる。	小・中連携の取組を推進し、児童生徒のキャリア教育の意識を高め、進路意識を醸成させる。
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置
キャリア教育推進委員会	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置	キャリア教育推進委員会の設置

**目指す児童生徒像が明確になり、協力して育てようという意識が高まった。**

配付資料9ページにありますように、9年間を見通して児童生徒を育てるために、小・中共通のキャリア教育の目標を明確にし、基本計画を作成しました。【●】

これによって目指す児童生徒像が明確になり、小・中学校教員が協力して中学校区の子どもたちを育てようという意識が高まりました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (7) 「身に付けさせたい学習習慣系統表」の活用

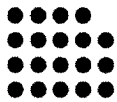
項 目	身に付けさせたい学習習慣	
	小 学 校	中 学 校
①学習の準備と後片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>机の中やロッカーを、きちんと整理整頓する。</li> <li>次の時間の準備をしてから休む。</li> <li>授業の始めと終わりのあいさつを、礼儀正しく行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、予習をして授業に臨む。</li> </ul>
<b>学習習慣を定着させるために発達段階を踏まえて的確に指導できるようになった。</b>		
	<input type="checkbox"/> 困いての目を見て <input type="checkbox"/> いい姿勢で <input type="checkbox"/> うなずきながら <input type="checkbox"/> 困がおで <input type="checkbox"/> 困わりまで聞く	<input type="checkbox"/> うなずき、あいづち等を使い相手に反応を示しながら聞く。

26



また、配付資料11ページにありますように、小・中学校で「身に付けさせたい学習習慣系統表」の見直しを行ったことで【●】、発達段階に合わせて的確に指導できるようになりました。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (8) 合同の授業研究会の実施

- ・ 6月  
男鹿北中での指定校訪問Ⅰ
- ・ 7月  
北陽小での指定校訪問Ⅰ
- ・ 10月  
小・中連携実践研究モデル事業に関わる教員加配校訪問
- ・ 11月  
北陽小・男鹿北中 指定校訪問Ⅱ

相互の授業参観や研究会への参加によって多様な視点での学び合いができ、双方の授業力向上につながった。

27



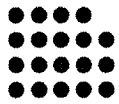
次は合同の授業研究会の一部を紹介します。

画面にある研究会の他に、日常的な相互授業参観をする機会も設けました。【●】

\* 4月、7月、12月に行った推進委員会を軸に、8月には全体研修会を行いました。11月の小・中連携生徒を語る会では生徒指導面でも児童生徒理解につながりました。

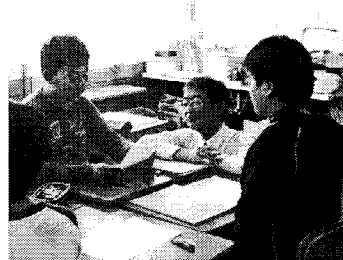
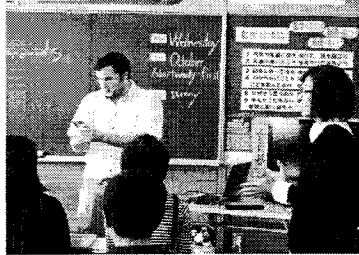
相互の授業参観や研究会への参加によって多様な視点での学び合いができ、双方の授業力向上につながりました。

【●】



## 平成27年度の実施内容

### (8) 研究授業の様子

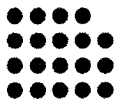


28



下段2枚は中学校1年生の数学の様子です。

【●】



## 平成27年度の取組内容

### (9) 相互の学校行事への参加

- ・ 6 / 26  
国際教養大学交流事業「太鼓教室」(5,6年生)
- ・ 11 / 26  
北中のPTA総合発表会(6年生)
- ・ 2 / 8  
北中のお茶会に参加(6年生)
- ・ 8月・10月・11月  
あいさつ運動



教員だけでなく、児童・生徒の交流も積極的に行い、円滑な接続を目指した。

29

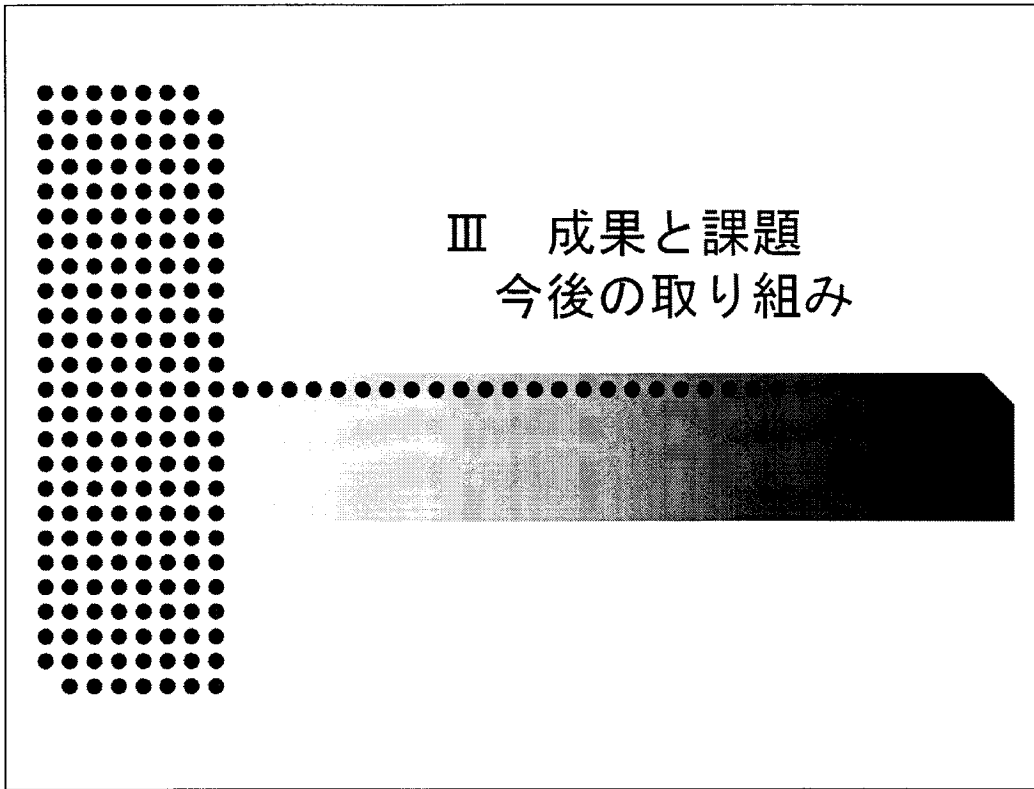


次は相互の学校行事への参加についてです。

画面のように小学生が中学校の校舎を訪れ、授業をしたり、行事に参加することが多くなったことで【●】、中学生との触れあいが多くなり、校舎の雰囲気や中学校生活に慣れていくことができました。

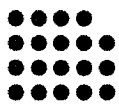
以上のように、主に9項目にわたり、取組ました。

【●】



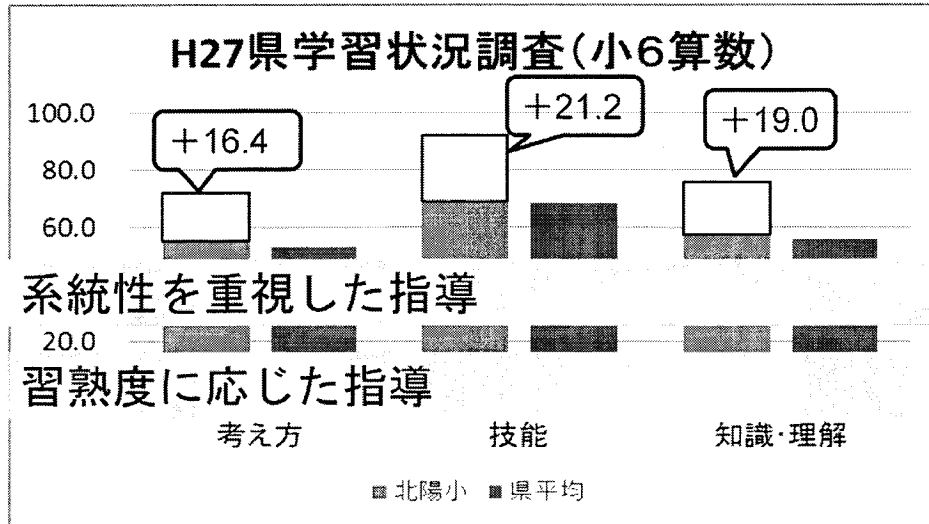
最後に、この研究の成果と課題、今後の取組について説明します。

【●】



## 成果と課題

### (1) 成果①



31

はじめに成果です。

平成27年度の 県学習状況調査 小学校6年生の算数の結果を 観点別に県と比較しました。【●】

考え方、技能、知識・理解 全ての観点において県平均を大きく上回りました。

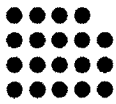
【●】

これは、系統性を重視し、中学校教師とのTT指導することにより、一人一人に細やかな指導を行うことができたこと、【●】

習熟度に応じて、上位レベルを中学校の教師に担当してもらい、どんどん問題を解かせたこと【●】

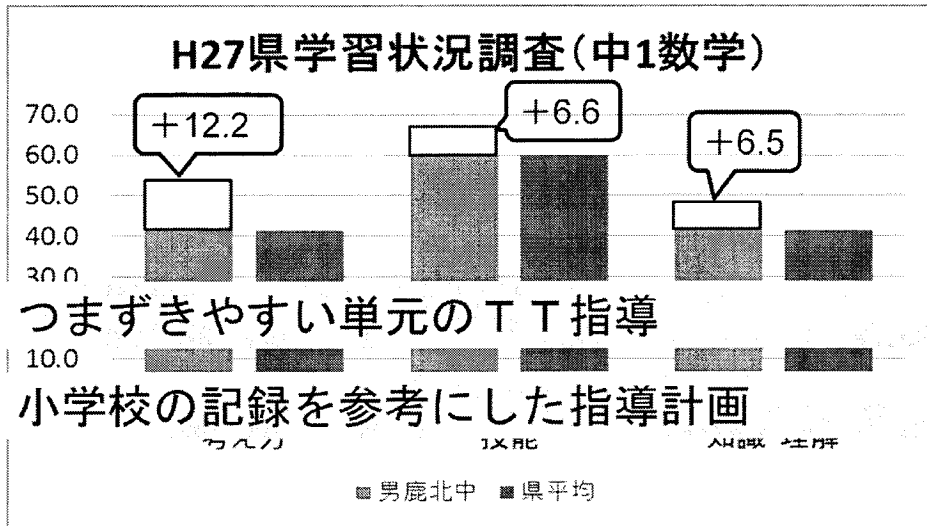
の成果と考えています。





## 成果と課題

### (1) 成果①



同じく、中学校1年生の数学で比較しました。【●】

こちらも全ての観点において県平均を上回りました。

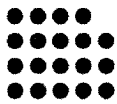
【●】

中学校でつまずきやすいところ、たとえば、割合、速さ、単位の変換、反比例などを、小学校教師と共通理解し、手厚く指導したこと【●】

中1では、小6での学習の様子を記録したものも参考にしながら授業計画を立て、小学校での学習を想起させながら指導を進めたこと【●】

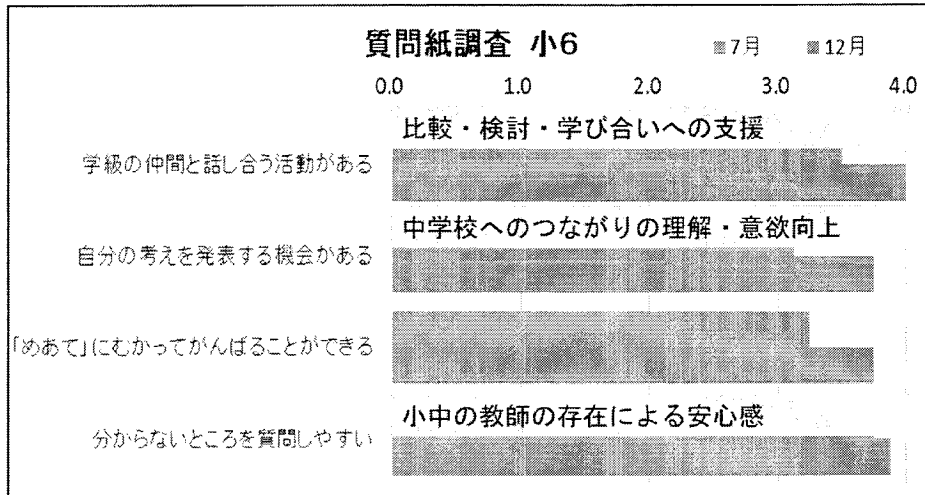
など、2年間の乗り入れ授業の成果と考えられます。

【●】



## 成果と課題

### (1) 成果②



33

次の成果の二つ目です。

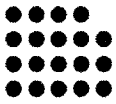
年に2回実施した、連携事業に関する質問紙調査では、児童生徒ともに、どの項目においても7月より12月に伸びが見られます。

この結果は児童生徒の気持ちを1から4の尺度で質問しており、4が最高となります。

比較・検討の学び合いの場面での話し合い活動のときに、それぞれの教師が入り支援していくことで話し合いが深まりました。【●】

学習内容が、中学校でのどの部分につながっていくのかということを知ること、今学習している単元は大切だ、できるようにしておかなければならないという意識をもち、学習意欲の向上につながっていること【●】

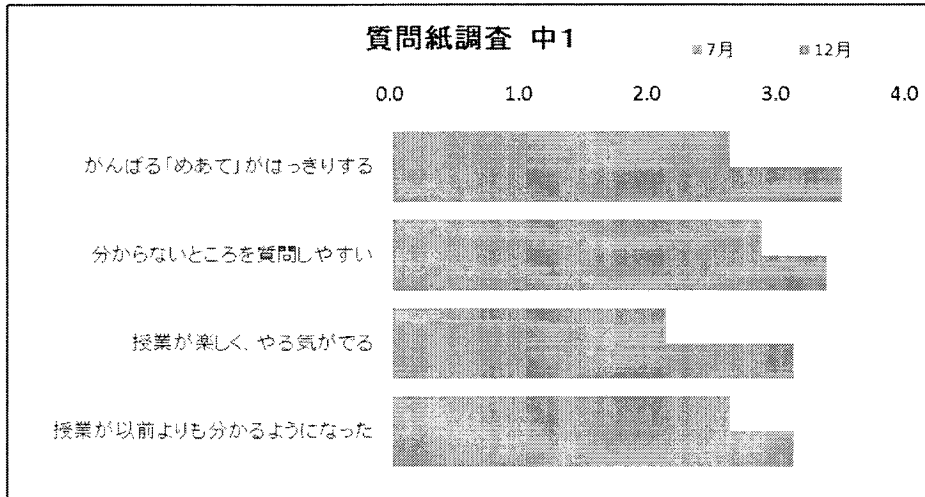
小・中で乗り入れている教師の存在そのものが、児童生徒の精神的な安定を生み、ひいては成績の向上につながっていると考えます。【●】



## 成果と課題

### (1) 成果②

スタイルが同じことにより抵抗感がなくなる。

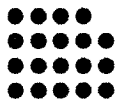


34

中学校1年生も小学校6年生と同様に、特に「授業が楽しくやる気が出る」という項目が伸びています。【●】

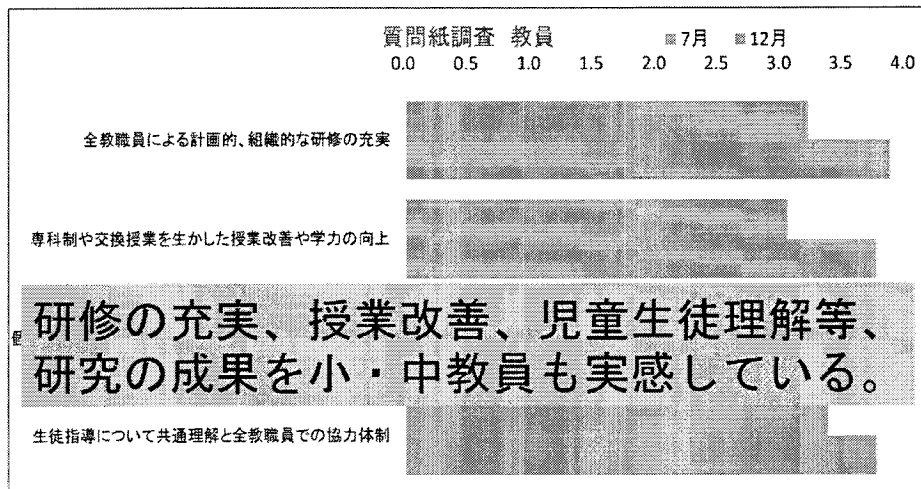
小学校と中学校では、算数・数学の授業スタイルが同じなので、中学校でも抵抗なく授業に臨むことができていること、しかも、小学校の先生が来ることで、よりがんばろうという意欲にもつながっています。

【●】



## 成果と課題

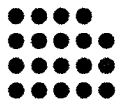
### (1) 成果③



成果の3つめとして、

教員に対しての質問紙調査からは、研修の充実、専門性を生かした授業改善、個に応じた指導【●】、そして児童生徒理解に対する成果を実感することができたことがうかがわれます。

【●】



## 成果と課題

### (2) 課題

発達段階に合わせた家庭学習への指導のあり方を見直す必要がある。

来年度以降、乗り入れ授業や合同行事を実施していくための体制づくりを具体化しなければならない。

36

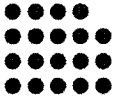


次に課題についてです。

一つ目は、発達段階に合わせた家庭学習への指導のあり方を見直す必要があるということです。

また、28年度以降、乗り入れ授業や合同事業を実施していくための体制づくりを具体化しなければなりません。

【●】



## 成果と課題

### (3) 28年度の取組

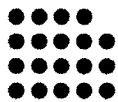
教科	実施校	学年, 時期, 指導形態, 指導内容等
数学	小→中 中→小	1年 前期 4月～週2回程度 小6 後期 11月～12月, 1月～2月上旬 2単元程度
<b>加配教員がない場合も、可能な限り乗り入れ授業体制を調整し継続する。</b>		
理科	中→小	小5 1単元程度 小6 11月下旬から12月 (水溶液)
音楽	中→小	全校 10, 3月の歌唱指導
保健体育	小→中	全校 7, 8月の水泳指導 (小学校プールで)

37



最後に今年度からの取組です。今年度は、加配教員がいなくなりましたが【●】、単元や時期を絞って、数学、外国語活動、理科、音楽、保健体育とできる範囲で乗り入れ授業を継続しています。

【●】



## 成果と課題

### (3) 28年度の取組

#### 「目指す児童生徒像」を共有

「キャリア教育基本計画」、「学習習慣系統表」の改善

#### 家庭学習習慣を定着

各家庭との連携の強化、内容の質や量の見直し

#### 小・中学校の交流の深化

研修会、学校行事の共同開催

38

「目指す子ども像」を共有し、【●】

小・中学校共同で「キャリア教育基本計画」と「学習習慣系統表」の改善を重ねていく。

【●】

家庭学習習慣を定着させ【●】

内容の充実を図るため、各家庭と連携しながら9年間を見通した指導を実践する。

【●】

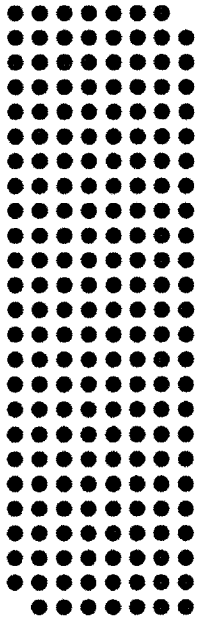
合同の研修会、保健集会、運動会等の実施によって【●】小・中学校の交流を深める。

【●】

など、これまでの取組によって形成された小・中連携の手法を大切に、地道な歩みが続けていきたいと思えます。

【●】

平成28年度 第64回算数・数学教育研究(山形)大会



基礎学力の向上と児童生徒理解の深化を目指した、小・中学校の円滑な接続の在り方

～小・中学校相互乗り入れ授業における  
TT指導を通して～

おわり

以上で発表を終わります。  
ありがとうございました。



# 乗り入れ授業のための日課表改善

時間	8			9			10		
	男鹿北中	読書 15	朝会 5	1校時 8:40-9:30	10	2校時 9:40-10:30	10	3校時 10:40-11:30	
変更前									
北陽小	朝会 10	朝学習 15	1校時 8:35-9:20	5	2校時 9:25-10:10	15	3校時 10:25-11:10	5	
変更後									
男鹿北中	朝会 10	5	1校時 8:25-9:15	10	2校時 9:25-10:15	10	3校時 10:25-11:15		
北陽小	朝会 10	15	1校時 8:35-9:20	5	2校時 9:25-10:10	20	3校時 10:30-11:15		

〔資料Ⅱ〕 北陽小学校・男鹿北中学校 小中連携 9年間を見通したキャリア教育基本計画

(○)は2校共通のよさ。●は2校共通の課題

学校・学団	男鹿市立北陽小学校		男鹿市立男鹿北中学校	
	低学団	中学団	中学団	高学団
小中共通	夢や希望をもち、主体的に進路を選択できる児童・生徒の育成			
キャリア教育の目標	① 発達段階を踏まえて、自分の「よさ(性格・行動・長所・夢・希望)」を伸ばそうとするとする児童・生徒の育成 ② 主体的に情報を活用しながら、将来の目標に向けて努力しようとする児童・生徒の育成			
キャリア教育に関連する主な学校行事	校外学習	なまはげ柴灯祭り・お山かけ	宿泊学習・修学旅行・ふらさと探訪	校外学習・宿泊学習・修学旅行・職場体験学習
各学団・学年の重点目標	友達づくりに中心に自己及び他者への関心を高め、自己の役割に意欲的に関わりあう態度を養う。	自分のよさや自分の成長に気づくことにより、自己肯定感を育て、友だちと協力して生活しようとする態度を養う。	自己の個性を理解し、夢に向かって自分の能力を高めようとする意欲や態度を育てる。	(1年) 進路についての関心を高め、自己理解の必要性や方法を理解する。身近な職業について学び、勤労の尊さや意義について考える。 (2年) 職業や上級学校に関する情報を収集し理解を深めるとともに、自己の個性と適性について考える。自己の将来の生き方を考え、進路計画を明確にする。 (3年) 自己理解と進路情報に基づき、自分にふさわしい進路を選択し、実現できるよう努力する。自己を向上させ、将来の生活を自ら主体的に切り開こうとする態度を養う。
人間関係形成・社会形成能力 つながる力 ○他者を認めつつ協働する。 ●他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える。	友達と仲良く行動する。 自分の考えをはっきり話す。 大きな声で返事をすすめる。 縦割り班では、楽しく活動する。	友達と助け合って行動する。 自分の考えを話し、友達の考えを聞く。 元気に返事やあいさつをすすめる。 縦割り班では、上級生の言うことを聞き、協力する。	友達の意見を聞き、話し合っ行動する。 友達の考えを聞き、自分の考えを言う。 場にふさわしい言葉遣いをする。 縦割り班の活動では、下級生を助け、活動の責任をもつて進める。	自分の意見を分かちあいやよく伝える。 場にふさわしい言葉遣いをする。 他者と協力し合う。 個々の存在意義を意識させる。 縦割り班活動によりリーダーシップを発揮する場面を作る。
自己理解・自己管理能力 みつめる力 ○自分自身のよさを伸ばそうと主体的に行動する。	自分の「よさ」に気付く。 自分から進んで行動する。	自分の「よさ」を伸ばそうとする。 自分から進んで行動し、最後までやり遂げる。	自分の「よさ」をさらに伸ばそうとする。 自分で目標を決めて、責任感をもって行動する。	自分のよさに気づき伸ばす。 進路への興味・関心を高める。 自分の意思で決めたことに責任をもって取り組む。
課題対応能力 やりぬく力 ○自分が行うべきことに意欲的に取り組む。 ●情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する。	決められた仕事にまじめに取り組む。 読書に親しんでいる。	決められた仕事に責任感をもつて取り組む。 目的に応じて書籍を選び、必要な情報を入力できる。	目標をもち、自分の責任を果たそうとする。 書籍やインターネットを用いて必要な情報を入力できる。	見通しをもって目標や計画を立て、修正しながら活動する。
キャリアアプラインニング能力 はたらく力 ○「働くこと」の意義を理解する。 ●適切な将来設計をしたり、選択したり、行動したりする。	身の回りに、たくさん働く人がいることを知る。 与えられた仕事をまじめに行う。	たくさんさんの仕事があることを知り、夢をもつ。 与えられた仕事を一生懸命に行う。	働いている人の話を聞き、将来の夢を具体的に描いたり、調べたりする。 自分の果たすべき役割を、責任感をもって行う。	福祉体験や職場体験学習を行い、働くことの意義や自らの生き方を考える。 三者面談・三者面談を通して個性に合った進路選択ができるようにする。 自己の将来像をもち、進路設計する。

【資料3】教師用手引き

学びの質を高める算数授業 北陽スタイル		
指導のポイント	具体的な手立て	
事前	①学習活動を通して引き出したい子どもの姿を明確にする	ねらい、課題とリンクさせ、述べて授業を組み立てる。
導入	②子どもが解決への必要感をもつことができる学習課題の提示	引き出したい子どもの姿から考える行動型ではなく、課題型で
	③短時間（5分程度）で興味を引き付け、課題を焦点化させる工夫	身近な現象・具体物 一部分を隠す 「何をどの程度」かは、本時で引き出した子どもの姿と子どもの実動から考える
自力解決	④自分の考えをかく場の設定	言葉、式、図、数直線、表、グラフなどを用いて
	⑤動機に応じた適切な支援	具体物を用いた観察、操作、実験を取り入れる 前時までのノートを読み返らせる
学び合い	⑥学び合いの場面に置いて取り上げる考え、取り上げる順番、関係付ける表現の検討	学び合いをイメージした発表資料の準備（武だけ、図だけなど） みんなが見える字や数字の大きさ
	⑦自分の考えを説明する場を設定する	何を説明させるか明確にする（事実、方法・手順、理由など） ペア、小グループ全体で 子どもの説明する順番（指名し、板書など） 左連の考えた式、図などを読み取らせる
まとめ	⑧学び合いで獲得したことを活用する場の設定	子どもの表現を尊重して学びを深める（教師の更換機能切る）
	⑨まとめ・振り返りをノートに書く場の設定	算数5つの目の活用 次問にどこは？ なぜあそこは？ なぜあそこは？ なぜあそこは？ 「例えば」「もし、一たつたら！」

先生方で指導過程のイメージをキーワードで共有できるようにした

言語活動に深く関連するものは太字で示した

【資料4】子ども用手引き（高学年用）

### 算数の勉強 北陽スタイル

**つかむ・見通す**

今日はどんな勉強かな？

問題をよく読んでみよう！

どんなふうにするか解けるかな？

似た問題は？

答えはどれくらいかな？

考えを予想してみよう！

**といてみる**

前の知識は使えないかな？

自分の考えをかいてみよう！

ノートを見てみよう！

早くできたよ！

別のやり方はないかな？

答えを確かめてみよう！

みんなに説明できるようにしよう！

◎言葉  
◎式  
◎数直線  
◎グラフ  
などを試してみよう！

**話し合う**

自分の考えを分かりやすく説明しよう！

友達の考えを聞いてみよう！

自分と同じところは？

ちがうところは？

どの考えがいいだろう？

大事なところは家で、友達のいい考えもかこう

算数5つの目

同じところは？  
ちがうところは？  
なぜあそこは？  
なぜあそこは？  
なぜあそこは？

**まとめる・ふり返る**

できた！わかった！

話し合ったやり方でやってみよう！

今日はどんなことがわかったかな？

友達のどんな考えが良かったかな？

子どもの発達の段階に応じて、低・中・高の3つのバージョンを作成

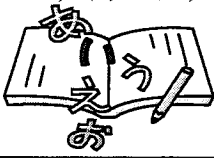
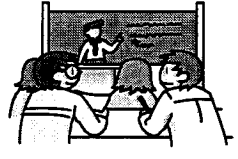

【資料5】北陽スタイルを具現する指導案様式

	学習活動	学習形態	教師の主な支援と評価
導入	問題		
	課題		
自力解決	予想される子どもの考え (数学的な表現)		予想される考えの分類。これをコーディネートして、ねらいの達成につながる学び合いをつくる。
学び合い	予想される子どもの考え (説明内容の分類)		子どもの考えを一般化してまとめにつないだり、一層深めて発展させたりするための発問。
	話し合いの視点		評価
まとめ・振り返り	まとめ		本時のまとめを指導案に位置付けることにより、子どもに身に付けさせたいことを一層明確にした。次の時間からの子どもが使えるアイテムになる。

○単元名  
○本時の展開  
(1) ねらい  
(2) 引き出したい子どもの姿（言語活動を通じた子どもの姿）  
(3) 展開

(1)のねらいを、言語活動を通してねらいを達成した子どもの姿（言葉+活動する姿+式、図、表など）として具体化。ねらいの達成に向けた活動発問、板書、支援の方法などが具体化する。

【 資料 6 】 <身に付けさせたい基本的学習習慣>

項 目	身に付けさせたい事柄	
	小学校 (㊟…全校, ㊞…低学年, ㊟…中学年, ㊞…高学年)	中学校
①学習の準備と後かたづけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟机の中やロッカーが、いつもきちんと整理整頓されている。</li> <li>㊟時計を見て行動し、先生が来るまで静かに自習している。</li> <li>㊟次の時間の準備(用具・着替えなど)をしてから休む。</li> <li>㊟授業の始めと終わりのあいさつを礼儀正しく行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、予習をして授業に臨む。</li> </ul> 
②ノーチャイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟5分間休みは教室で休憩するようにする。</li> <li>㊟他の学級が学習中のときは、教室移動や休憩の仕方など、他の学級のことを考えた行動をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計を見て、自分の判断で時間に余裕をもって行動できる。</li> </ul>
③聞く	<p>《聞き方「あいうえお」の約束を守る</p> <p>あいての目を見て いい姿勢で うなずきながら えがおで おわりまで聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㊞友達の発表を最後まで聞き終えてから、挙手や発言をする。</li> <li>㊟自分の考えと比べながら聞く。</li> <li>㊞気付いたこと、大事だと思ったことなどはメモをとりながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成か反対か、自分の考えと比べながら話を聞く。</li> <li>・うなずきやあいづちを活用し、相手に反応を示しながら聞く。</li> </ul>
④話す	<p>《話し方「はひふへほ」の約束を守る</p> <p>はっきりと ひとの顔を見て ふざけない へんじをして ほんきで話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㊞場に応じた声の大きさで、最後まではっきり話す。</li> <li>㊟要点をまとめ、聞き手に分かるように話す。</li> <li>㊞結論を述べてから理由をつけ加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名されたら「はい」と返事をする。</li> <li>・5W1Hを意識して、文末まできちんと話す。</li> <li>・敬語の使い方に気をつけ、先輩や目上の人ときちんと話す。</li> <li>・明るい表情で、明瞭に話す。</li> <li>・相手の話を受けて、自分の考えや意見を述べる。</li> </ul>
⑤ノート・シートへの向かい方	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟下敷きをきちんとあて、姿勢に気を付けて書く。シャープペンシルは使わない。</li> <li>㊟月日をしっかり書くとともに、シート類にはすぐに記名する。</li> <li>㊞鉛筆を正しく持ち、文字の大きさを考え、整えて書くようにする。</li> <li>㊟文字の色や記号を工夫してまとめる。</li> <li>㊟見やすいようにていねいに書く。</li> <li>㊞各教科にあったノートの使い方を工夫する。</li> <li>㊞自分の考えを深めるために活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートなどをきちんと分類してファイリングする。</li> </ul> 
⑥学習の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟学習の進め方が分かり、見通しをもって取り組む。</li> <li>㊞学習課題をしっかりつかみ、何を解決する活動なのか分かる。</li> <li>㊟学校で学習したことに興味や関心を深め、図書館や家で調べようとする。</li> <li>㊞課題意識をもって学習に参加し、振り返りと次時のめあてをきちんともつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる問題・分からない問題をきちんとチェックして学習を進める。</li> <li>・教科書や問題集でできなかったチェック問題に取り組む。</li> <li>・繰り返しの学習を効率よく行い、学習内容の定着に努める。</li> </ul>
⑦グループ学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟グループの人と仲良く協力して学習する。</li> <li>㊞友達の前で自分の考えを進んで話す。</li> <li>㊞分担した仕事をがんばってする。</li> <li>㊟責任をもって自分の役割を果たす。</li> <li>㊟互いの考えを大事にしながら、より話し合いを深めようとする。</li> <li>㊞互いのよさをグループの中で生かそうとする。</li> </ul>	
⑧自習の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟自習に必要な道具を準備しておく。</li> <li>㊟指示があるまで机に向かい学習する。</li> <li>㊟形態に合わせた声で学習する。</li> <li>㊟プリントに書く→ノートに書く。</li> <li>㊞自分学習(個別)。○付けは自分です。満点かどうか。</li> <li>㊟友達学習(グループ共同)。満点にならなかったのはなぜか。</li> <li>㊞学級学習(学級全体)。自分の次の目標をしっかりともつ。</li> </ul>	
⑨家庭学習・読書	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊟家庭学習は「10分×学年+10分」を目標時間にして毎日取り組む。</li> <li>㊟前日のうちに時間割を確かめ、学習準備をしておく。</li> <li>㊟家庭でも、進んで音読や読書活動に取り組む。</li> <li>㊞先生が出した宿題を家庭で取り組む。</li> <li>㊞国語の教科書を大きな声で音読練習する。</li> <li>㊟先生が出した宿題の他に先生と相談し、自分で課題を決めて取り組む。</li> <li>㊟いろいろな教科書を音読する。</li> <li>㊞自分で計画を立てて家庭学習に取り組む。</li> <li>㊞読書以外にも毎日いろいろな活字(新聞等)に親しむ習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疲れていても毎日一定の時間机に向かう習慣をつける。</li> <li>・得意教科と苦手教科の学習量のバランスを考えて家庭学習に取り組む。</li> <li>・応用問題・発展問題にどんどん取り組む。</li> <li>・新聞などから自分の興味ある話題を選んで読む。</li> </ul>